

第2回定例研究会

「プラモデルの箱絵～その様式展開から見る昭和の文化史」

第2回定例研究会は、青森県立美術館美術企画課学芸員の工藤健志先生をお招きして、「プラモデルの箱絵～その様式展開から見る昭和の文化史」というテーマで講演いただきました。工藤健志先生のご経歴は、下記の通りです。

【講師プロフィール】

1967年 福岡県に生まれる。

大阪教育大学大学院美術教育学専攻造形芸術学専修修了。

専門は戦後日本美術と近世絵画。現在、青森県立美術館美術企画課学芸員。

主な企画担当展覧会として、

「立石大河亞 1963-1993 筑豊・ミラノ・東京、そして」(94年、田川市美術館)、「山本作兵衛展」(96年、田川市美術館)、「マンドラゴラの実～現代美術が写す、筑豊」(97年、田川市美術館)、「キッズ・アートワールドあおもり 2000」(00年、青森県)、「成田亭が残したもの」(03年、青森県・七戸町立鷹山宇一記念美術館)、「造形集団 海洋堂の軌跡」(04年～、水戸芸術館等)、「ボックスアート プラモデル・パッケージと戦後日本文化」(06年～、大分市美術館等)、「縄文と現代～2つの時代をつなぐ〈かたち〉と〈こころ〉」(07年、青森県立美術館)、「寺山修司◎劇場美術館」「土方翼と日本のアヴァンギャルド」(08年、青森県立美術館)などがある。

「美術」という枠組みを超えた様々な「表現」を、それを生み出した社会的背景との関係の中で考察することをテーマに、展覧会の企画や執筆活動を行っている。

講師

工藤 健志 氏（青森県立美術館美術企画課学芸員）

テーマ

プラモデルの箱絵～その様式展開から見る昭和の文化史

講演日

2009年6月20日（土）14:00～17:00 受付開始 13:30～

場所

武庫川女子大学 甲子園会館 K205

申し込み

不要



© 生活美学研究所